

経営比較分析表（平成29年度決算）

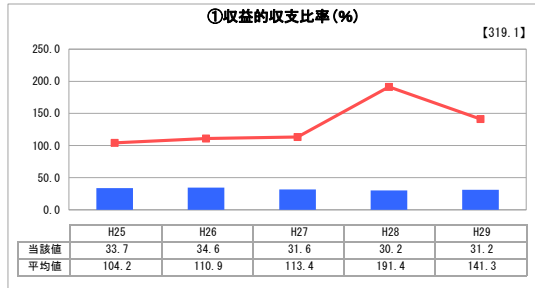
香川県坂出市 坂出駅北口地下駐車場

業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A2B1	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	都市計画駐車場 届出駐車場	地下式	17	

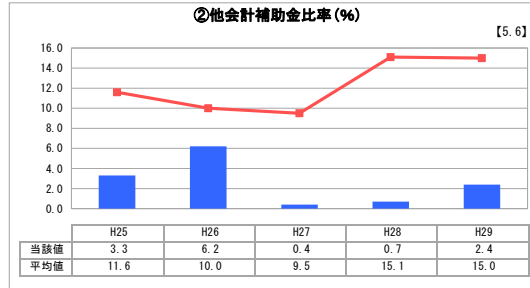
立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m ²)
駅	無	5,247
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
126	200	導入なし

グラフ凡例
■ 当該施設値 (当該値)
— 類似施設平均値 (平均値)
【】 平成29年度全国平均

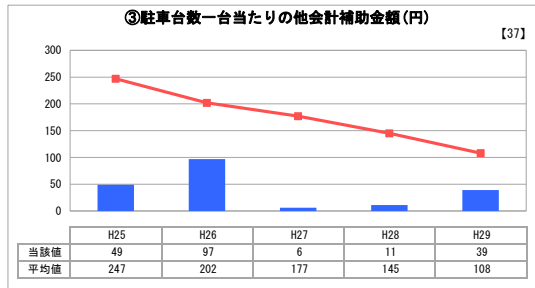
1. 収益等の状況



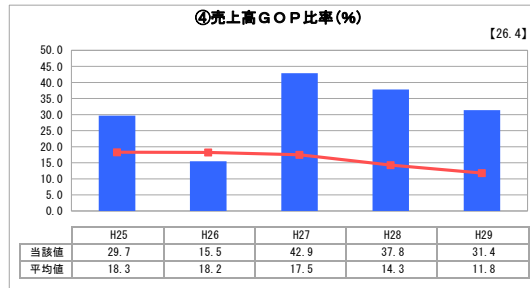
「経常損益」



「他会計補助金割合」

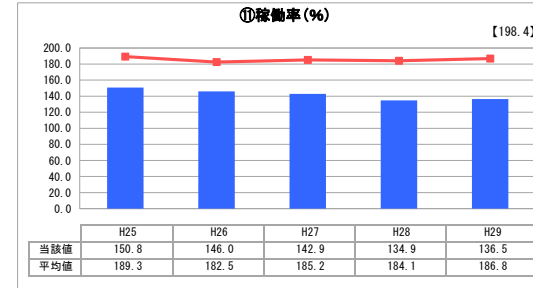


「他会計補助金額」

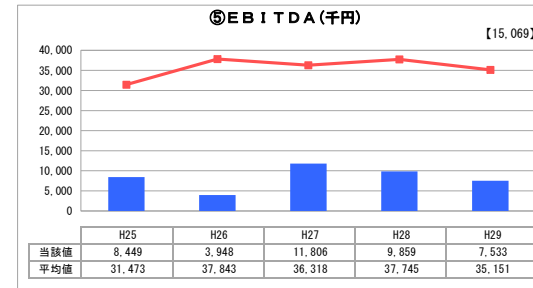


「売上高に対する営業総利益」

3. 利用の状況



「施設の効率性」



「減価償却前営業利益」

2. 資産等の状況

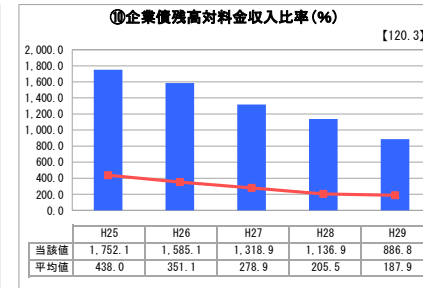


「施設全体の減価償却の状況」

⑦敷地の地価(千円)	0
⑧設備投資見込額(千円)	0



「累積欠損」



「債務残高」

分析欄

1. 収益等の状況について
 施設の管理費自体は営業収益により賄えているが、施設の建設費に伴う地方債償還金の額が大きいため、全体としては営業収益のみでは賄えきれない。そのため、他の類似施設と比較すると、①収益的収支比率が顕著に低くなっている。
 ②他会計補助金比率を見ると、H26年度の割合が過去5年間で最も高くなっている。これは多額の工事（事前精算機の取替）を行い、一般会計から繰り入れを行ったために、営業費用・総費用が増大したことによる。同様に、H26年度の④売上高GOP比率と⑤EBITDAも上記の理由により、他年度と比較すると減少している。
 H29年度では中規模工事（カーゲート取替工事）を行った。そのため一般会計からの繰入額が直近3箇年で大きくなり、②他会計補助金比率、④売上高GOP比率及び⑤EBITDAの数値はここ3年で悪化した。

2. 資産等の状況について
 建設から17年が過ぎて、耐用年数を超えてきた機器等が出始めてきたため、優先度の高いものから機器の更新を行っている。H29年度はカーゲート取替工事を行った。他の類似施設と比較すると、⑩企業債残高対料金収入比率がここ5年間減少傾向にあるが、依然として類似施設の平均値を大きく上回っているため、設備更新の財源を含め、経営改善に努めていく必要がある。

3. 利用の状況について
 H29年度は前年度より1.6ポイント上昇したが、稼働率は減少傾向にある。さらに、他の類似施設と比較しても稼働率は低く、その差は広がっている。
 この要因として、当該駐車場の周辺に半額程度の上限金額で利用できる駐車場が複数あること、当該駐車場は30分以内の利用者と長時間の利用者が多く、両時間の間となる時間の利用が少ないことが考えられる。稼働率向上のために上限金額の値下げが考えられるが、値下げをすることによってますます長時間利用者の増加を促し、稼働率の向上には繋がるとは言えない。稼働率の向上については、周辺の駐車場の料金だけでなく、消費者の動向等も視野に入れ、慎重に検討していく必要がある。

全体総括
 地方債償還金の返還がH34年度まで残っているため、依然として厳しい状況が続くと思われるが、経費削減等に努め、経営状況の改善を行っていく。地方債償還金の返還に伴う一般会計の繰り入れによって、赤字となっているため、償還金分の資金の確保が重要になる。経費削減等の地道な努力や、近隣駐車場や利用者の動向等周囲を取り囲む環境を把握した上で、収益の増加に取り組む必要がある。稼働率の向上については、利用者の傾向等の様々な観点から、検討を重ねていく必要がある。
 当該駐車場は駅周辺の都市機能の強化を図ると共に、渋滞の緩和及び交通事故の防止を目的に設置されているため、本来の目的を見失わないよう、これらの資料を参考にし、様々な方法と比較検討しながら、H32年度までに経営戦略の策定を目標とする。